



2021年(令和3年)6月オホーツク管内倒産集計

令和3年7月5日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

5か月連続だが最少発生に 前月に続き2億円超の倒産

発生件数1件、負債総額2億2,400万円

■前月比	件数	同数(令和3年5月)	1件)
	負債総額	3,600万円減少(" 2億6,000万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	1件増加(令和2年6月)	0件)
	負債総額	2億2,400万円増加(" 0円)

令和3年6月の発生状況

令和3年6月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生が1件、負債総額は2億2,400万円だった。これは前月比で件数は同数であるが、負債総額では3,600万円の減少。発生がなかった前年同月との比較では全皆増となった。

当月の1件は売上不振で平成29年1月に営業を停止していた大空町の(株)華北(パチンコ店)で、釧路地裁網走支部から破産手続開始決定を受けたもの。これで5か月連続の発生となり、2億円台規模の倒産は前月に続いて今年2件目となる。

過去5年間の6月の発生状況を見てみると平成28年1件、29年2件、30年2件、元年5件、2年ゼロ件であり、平均発生件数は2.0件、同負債総額は1億1,400万円。今年は最少発生に止まったことから、件数は平均値を下回ったものの、負債総額では前月に続いて2億円台規模の発生により、平均値を大きく上回った。

過去5年間と今年1～6月の発生推移

今年1～6月の発生累計は件数で8件、負債総額は8億2,100万円となり、前年同期間と比較すると件数で1件の増加となったものの、負債総額では倒産の小規模化から3億6,500万の減少となっている。

過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均件数は10.4件、負債総額で11億7,198万円。今年の発生件数は平均値内に止まっているほか、負債額については3番目に少ない負債総額となっている。

過去5年間と今年1～6月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
28年	11件	22億1,700万円
29年	15件	6億6,700万円
30年	10件	11億4,400万円
元年	9件	6億4,590万円
2年	7件	11億8,600万円
3年	8件	8億2,100万円

今後の見通しと問題点

今年上半期(1月～6月)の倒産状況を見ると前期比で1件増となった。3年連続で1桁台の倒産件数に止まっているなど小康状態を維持しているが、倒産が低水準であるのは好景気反映したものではないため、水面下で倒産予備軍が増加している可能性もある。

発生した8件の業種を見ると製造業3件、サービス業2件、卸・小売業、車輛、建設が各1件の内訳であり、3件を数える製造業は全て水産加工場業者。水産資源の減少、コロナ禍による需要減、人手不足などに加え、ホタテが市場価格低迷のなかでスタートしているのが懸念材料だ。サービス業、卸・小売業についてはコロナ禍の影響を受け引き続き厳しい状況が続いている。上半期1件に止まった建設業は、大型建築工事が公共・民間ともに少なく、期待の住宅関連もウッドショックによって先行きに不安材料を抱えている。新型コロナワクチンの普及が進みはじめ、景況改善が期待されているものの、下半期にかけて懸念材料は多く、管内倒産は今後緩やかに増加する可能性もある。